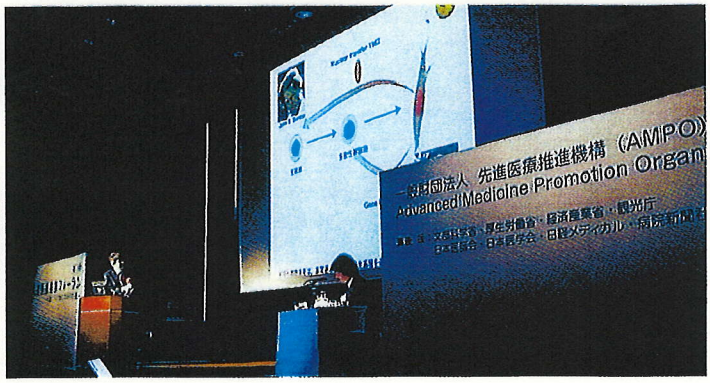
「病院新聞」 2014年3月20日 第2308号

AMPO

第1回先進医療推進フォーラム開く

継続開催に向け意欲

中村大会長



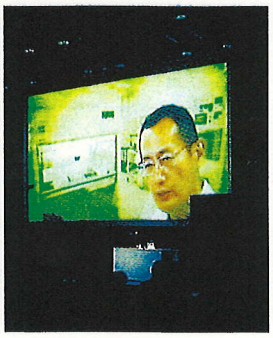
中村大会長

高久代表理事

武田座長

先進医療推進機構（AMPO、代表理事＝高久文麿・日本医学会会長）は一日、「第一回先進医療推進フォーラム～医師たちが挑む革新的医療」をベルサール汐留（東京都中央区）で開いた。あいさつした高久代表理事は「AMPOは、新しい医薬技術の情報を集めてインターネット上で公開し、病気に悩んでいる人や健康に興味を持つ人に知らせることが最大の目的。今後とも努力を続けていく」と力を込めて語った。フォーラムの大会長を務めた中村哲也・IMSグループ理事長は、AMPOの歴史を振り返りながら、「今回は最先端医療がテーマだが、今後はより身近でかつ先進的な医療や介護を紹介していく」とし、継続的にフォーラムを開催していく方針を明らかにすると

iPS細胞技術など解説



熱気あふれる会場には、山中氏らの映像が流された

ともに、当日はIMSグループの開院記念日とも重なったことから「この日に開催できたことをうれしく思う」と述べた。

AMPOは、先進的医療の情報を収集・分析し、我が国の医療界へ普及促進を図る目的で平成二十二年に設立。インターネット上に先端医療の動画を配信するなど、国民が最先端の医療を享受できる環境づくりに努めてきた。平成二十四年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥・京都大学iPS研究所所長によるiPS細胞を使った研究も動画で紹介している。

今回のフォーラムはウェブに登場する医師らの取組みを直接聞く機会として企画されたもの。iPS細胞技術を用いて脊椎損傷などの患者の機能回復を目指す研究を行っている岡野栄之・慶應義塾大学教授が「iPS細胞技術を用いた医療革命」と題して、放射線がん治療のスペシャリストの徳植公一・東京医科大学教授が「がんの放射線治療・最新技術」について、固形がんに対する新規免疫療法の開発・研究を行う上田龍三・愛知医科大学教授が「日本発がん治療薬の開発戦略」をテーマにそれぞれ講演した。

フォーラムの座長を務めた武田隆久・武田病院グループ理事長は、先進医療は進歩の速さの一方で玉石混交の側面があることを指摘したうえで「フォーラムを通じて、意見交換し、今後、本当に役立つ先進医療を勉強していきたい」と述べた。

フォーラム後の懇親会では、来賓を代表して門田守人・がん研有明病院院長があいさつし、世界初の肝臓移植を成功させたトーマス・スターツル氏の言葉を引用し、「当初考えられなかったこともやがて道は開け、いつの間にかルーチンワークになる。これはAMPOが目指していることであり、患者が良い医療を受けられるように導いてもらいたい」と期待を寄せた。続いて登壇した東京大学医科学研究所の藤堂具紀教授は、まったく新しいがんの治療法「がんのウィルス療法」を紹介。乾杯の音頭は日本病院会の堺常雄会長が務め、医学教育と人材育成の重要性を指摘したうえで、「本日の講演を仕事の糧にしていきたい」とあいさつした。